



令和4年度
学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立山崎小学校
学校関係者評価委員会

委員長	廣田	隆之
委員	富永	順子
委員	神田	愛弓
委員	松原	靖代
委員	新	愛
委員	ペース	志穂

1. 今回の集計結果概要

令和4年11月 アンケート実施

- ・保護者数 361人 web回収 82人 回収率 23%
- ・地域配布数 40枚 web、紙面回収 26枚 回収率 65%
- ・児童在籍数 117人 web回答 80人 回収率 68%

今回より、初めてのタブレット端末等を利用した回収となり、例年よりも回収率が低いものとなってしまった。そのためか、例年よりも低評価が多くなっている項目が見られる。来年度は、回収率を高め、多くの皆様からの意見をいただいた評価となるよう、工夫して実施していきたい。

以下アンケート結果分析についてA+B評価が70%を超えている項目は概ね良好とした。

2. 保護者各項目の分析について

1. 学習指導について

- (1) A+B 評価が81%で良好な結果である。本校では、子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業が行われている。(2) A+B 評価が57%で低評価である。最近の授業はタブレットを使用しており、黒板・プリントの使用頻度が減少した結果だと推測する。(3) A+B 評価が82%で良好な結果である。本校では子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(4) A+B 評価が61%で低評価であるが、(1) (3) の評価は高く学習指導については概ね良好な結果である。

2. 生活指導について

- (1) A+B 評価が71%で概ね良好な結果である。(2) A+B 評価が80%で良好な結果である。本校教員はルールについて子どもに考えさせる指導をし、指導したルールについて子どもが理解している。

3. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について

- (1)～(3) 全ての項目においてA+B 評価が90%を超えており大変良好な結果である。保護者のほとんどが、子どもたちは学校行事が楽しみで、達成感があり、本校は意欲を大切に指導していると感じており大変好ましい結果である。

4. キャリア教育について

- (1) A+B 評価が67%でE 評価が18%。(2) A+B 評価が51%でE 評価が26%。本校ではキャリアパスポート等の活用をしているものの保護者の理解度は低い。

以下、文科省発行の小学校のキャリア教育の手引き（2022年3月版）からの抜粋。

近年、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行している。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結している。また、学校から職業への移行に問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている状況である。児童生徒に視点を移せば、自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況がある。また、身体的には成熟傾向が早まっているにも

関わらず精神的・社会的自立が遅れる傾向があることや、勤労観・職業観の未熟さなど、発達上の課題も指摘されている。このような問題を背景としつつ、今日、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実への期待が高まっている。

今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育実践の姿です。学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育をそれぞれの学校で推進・充実させましょう。

5. 教職員について

(1) A+B 評価が 83% で良好な結果である。本校の教職員はていねいに指導している。(2) A+B 評価が 73% で概ね良好な結果である。

6. 全般について

(1) A+B 評価が 95% で高評価である。子どもが学校生活を楽しいと感じている保護者が多いのは大変好ましい結果である。(2) A+B 評価が 56% で低評価である。家庭学習の習慣付けに課題がある。

(3) A+B 評価が 62% で昨年度より 13 ポイント改善しているが低評価である。学び舎の活動に関しては毎年低評価であり小・中学校の更なる連携を要す。(4) A+B 評価が 76% で良好な結果である。保護者は本校の教育活動に満足している。(5) A+B 評価が 76% で良好な結果である。子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。

7. 学校からの情報提供について

(1) A+B 評価が 93% で学校だより等による情報発信の評価は高い。(2) A+B 評価が 37% で低評価である。学び舎に関しての情報発信は更なる工夫を要す。(3) A+B 評価が 81% で良好な結果である。学校公開・保護者会等の効果が現れている。(4) A+B 評価が 80% で良好な結果である。本校はホームページやメール等で保護者に情報を提供している。

8. 学校運営について

(1) A+B 評価が 70% で概ね良好な結果であり、本校は保護者に重点目標を伝えている。(2) A+B 評価が 86% で良好な結果である。校長のリーダーシップのもと、全教員が協力して学校の重点目標達成のため行動している。継続した良好な学校運営を望む。

9. 家庭と学校との連携について

(1) A+B 評価が 89% で良好な結果である。本校保護者はすすんで学校公開に参加している。(2) A+B 評価が 71% で概ね良好な結果である。昨年度はコロナ禍で行事への参加は難しい状況であったが、今年度は学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している保護者が増加し、好ましい結果である。(3) A+B 評価が 43% で低評価である。前項 8 の (1) で本校は保護者に学校の重点目標を伝えているが、過半数の保護者は学校の重点目標を理解していない。学校だより 5 月号に掲載されているので一読していただきたい。

10. 地域との連携について

(1) A+B 評価が 67% (2) A+B 評価が 66% (3) A+B 評価が 52%で 3 項目全て A+B 評価が 70% 未満で低評価であるが、昨年度同様新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響があったと考察する。

11. 学校の安全性について

(1) A+B 評価が 79% (2) A+B 評価が 92% (3) A+B 評価が 83%であり良好な結果である。引き続き児童向けの安全指導・避難訓練やセーフティ教室、保護者向けの自然災害時対応の通知文等、継続して取り組むことを望む。

12. 基本的な生活習慣・健康な体について（学校独自項目）

(1) A+B 評価が 73%で概ね良好な結果である。子どもは、自分からあいさつをしている。(2) A+B 評価が 80%で良好な結果である。子どもは、話している人を見て話を聞いている。(3) A+B 評価が 77%で良好な結果である。子どもは、毎晩きまった時間に寝る等、睡眠をしっかりとしている。(4) A+B 評価が 61%で食べ物の好き嫌いは低評価である。(5) A+B 評価が 68%で低評価であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の中で外遊びは難しいと考察する。

13. 特色ある教育活動について（学校独自項目）

(1) A+B 評価が 58%で低評価である。舟形交流学习はこの 3 年間オンライン開催で学習内容が保護者に伝わりにくかったと考察する。(2) A+B 評価が 94%で良好な結果である。子どもたちは、紙すき体験を楽しんでいる。(3) A+B 評価が 84%で良好な結果である。山崎太鼓は子どもたちの成長に役立っている。

14. 言葉に関する環境について（学校独自項目）

(1) A+B 評価が 66%で低評価である。本校では読書旬間を設定したり、ビブリオバトルを開催したり、読書の習慣が定着している。家庭での読書習慣の定着を望む。(2) A+B 評価が 78%で良好な結果である。子どもは自分の思いや考えを口頭・文章で伝えている。

3. 地域各項目の分析

1. 生活指導について

(1) A+B 評価が 81%で良好な結果である。本校の生活指導は地域から高評価を得ている。引き続き学校・家庭・地域で連携して生活指導を徹底することを望む。

2. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について

(1) A+B 評価が 92% (2) A+B 評価が 81%で良好な結果である。行事の内容、地域への配慮、学校への協力等、理解が得られている。

3. 学校からの情報提供について

(1) A+B 評価が 100% で大変良好な結果である。学校からのお知らせ等により、学校の様子が伝わっている。(2) A+B 評価が 73% で概ね良好な結果である。「学び舎」の活動について情報が提供されている。(3) A+B 評価が 69% で低評価あるが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等により学校公開等に参加ができなかったためと考察する。(4) A+B 評価が 81% で良好な結果である。学校のホームページには学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。

4. 学校運営について

(1) A+B 評価が 88% で高評価であり、本校の重点目標は明確である。(2) A+B 評価が 85% で良好な結果である。地域の意見に対して、本校はていねいに説明・対応している。

5. 地域との連携について

(1) A+B 評価が 81% で良好な結果である。地域の人材や施設を教育活動に生かし、地域とも連携が図れている。(2) A+B 評価が 62% で昨年度より 17 ポイント改善しているが低評価である。(3) A+B 評価が 69% で昨年度より 24 ポイント改善しているが低評価である。「学校協議会」「合同学校協議会」「学校運営委員会」の役割・活動内容について周知が不十分であり、更なる情報発信を望む。

6. 学校の安全性について

(1) A+B 評価が 89% で良好な結果である。(2) A+B 評価が 90% であり良好な結果である。引き続き地域と協力し学校の安全性を高めることを望む。

4. 児童各項目の分析

1. 学習指導について

(1) A+B 評価が 93% で大変良好な結果である。本校教員は、めあてについて、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。(2) A+B 評価が 79% で昨年度より 11 ポイント悪化しているが、タブレットの活用により黒板・プリントの利用頻度が減少したためと考察する。(3) (4) は A+B 評価が 85% を超えており良好な結果である。本校児童の学習指導に対する満足度は高い。

2. 生活指導について

(1) A+B 評価が 76% で良好な結果である。本校児童は、学校のルールについて考えて行動している。(2) A+B 評価 84% で良好な結果である。本校教員は、学校のルールを児童に考えさせて指導している。(3) A+B 評価が 83% で良好な結果である。児童は、教員が指導したルールについて理解できている。教員の生活指導に対する児童からの評価は高く、児童の自己評価も高い。引き続き、学校・保護者・地域で連携し児童がルールを守って行動できるよう指導することを望む。

3. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について

(1) A+B 評価が 90%で良好な結果である。児童のほとんどが学校行事は楽しい回答しており大変好ましい結果である。(2) A+B 評価が 74%で概ね良好な結果である。昨年度より 18 ポイント悪化しているが、学芸会開催前にアンケートを実施したためと考察する。(3) A+B 評価が 86%で良好な結果である。引き続き教員の工夫した指導で子どもたちのやる気を大切にすることや、子どもたちに達成感を持たせることを望む。

4. キャリア教育について

(1) A+B 評価が 69%で 9 ポイント悪化している。教員の工夫により、児童に目標を持たせその実現に向けた努力の後押しをすることを望む。(2) A+B 評価が 70%で概ね良好な結果である。(3) A+B 評価が 48%で低評価である。普段の授業の中で区立中学校に関する情報発信を要す。

5. 先生について

(1) A+B 評価が 93%で大変良好な結果である。児童は教員がていねいに指導していると感じている。
(2) A+B 評価が 76%で概ね良好な結果である。児童と教員に信頼関係があり大変好ましい結果である。引き続き児童との信頼関係を高めていくことを望む。

6. 全般について

(1) A+B 評価が 88%で良好な結果である。子どもたちのほとんどが学校生活は楽しいと感じ大変好ましい結果である。(2) A+B 評価が 78%で概ね良好な結果である。引き続き児童が安心して楽しい学校生活を送れるよう教員の指導力の更なる向上を望む。(3) A+B 評価が 59%で低評価である。家庭での宿題や e-ラーニングでの学習には課題がある。(4) A+B 評価が 58%。6 割近い児童が塾に通っている。(5) A+B 評価が 58%で昨年度より 29 ポイント改善されたがまだまだ低評価である。

5. 総評

今年度のアンケート調査は、保護者・地域・児童とも概ね良好な結果である。保護者 43 項目中 C+D 評価が 30%以上は 6 項目。そのうち 3 つ《6-2、11-4、13-1》は家庭教育に関する項目。その他は学び舎の情報《7-2》、学校の重点目標《9-3》、外遊び《11-5》で本校の教育に関する項目はなく良好な結果である。地域・児童もほぼ同様の傾向で良好な結果である。

今年度のアンケート調査は、保護者・地域とも初の WEB 回答での実施となった。そのためか保護者のアンケート回収率が 23%と非常に低い値となった。しかしながら学校評価に関心の高い保護者からの回答であり相対的な評価に影響はないと考察する。

政府からの行動規制は緩和されたが、地域の方・来賓の来校はほとんどなく最小限での学校運営となった。その中で創立 80 周年記念行事が開催されたことは喜ばしいことである。ご尽力いただいた関係者のみなさまに感謝したい。

また、コロナ禍 3 年目でまだまだ舵取りが難しい学校運営であった。その中、小池校長のリーダーシップのもと全ての教職員の協力により大変良好な学校運営であったと評価する。

6. 参考

1. 地域運営学校

世田谷区立全小中学校が指定されている。学校と地域の連携をより一層充実させ、地域と共に子どもを育てる教育を推進し、地域防災や地域行事など、学校・家庭・地域の連携・協働による取組みを一層充実するなど、地域コミュニティの核としての学校づくりをすることを目的としている。

2. 学校運営委員会

地域運営学校では、地域の方や保護者、学識経験者、卒業生からなる学校運営委員会を組織し、地域に根ざした学校づくりをねらいとした学校運営をすることを目的としている。

3. 世田谷杜の学び舎

世田谷 9 年教育の柱のひとつで近隣の世田谷区立小中学校で「学び舎」を構成し、より一体となって地域の教育力と特色を活かして教育活動や学校運営を進めることを目的としている。本校は世田谷中学校・城山小学校・若林小学校で「世田谷杜の学び舎」を構成している。

4. 学校協議会

学校と家庭・地域並びに関係諸機関と連携と協力を一層強化することを目的として、学校協議会を設置し、地域の協力を得ながら児童・生徒の健全育成、地域防災・防犯、教育活動の充実に取り組んでいる。学校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・PTA 会長・PTA 役員・主任児童委員・民生委員・児童委員・青少年委員・保護司・町会長・自治会長等で構成されている。

5. 合同学校協議会

学び舎単位の学校協議会

6. キャリア教育

我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成 11 年 12 月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてであった。同審議会は「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」とし、さらに「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言している。この答申を受け、キャリア教育に関する調査研究が進められ、平成 14 年 11 月には、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査 研究報告書）」を報告した。同調査研究報告書は、子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化について、数々のデータを基に分析し、「職業観・勤労観の育成が不可欠な『時代』を迎えた」とし、さらに、学校段階における職業的（進路）発達課題について解説するとともに、「職

業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を示した。一方、学校における教育活動が、ともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり、十分な取組が行われてこなかったりしたのではないかとの指摘も踏まえ、同年、文部科学省内に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」を設置し、平成16年1月には、その報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」を発表した。この間、国は、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣の関係4閣僚による「若者自立・挑戦戦略会議」が、平成15年6月に「若者自立・挑戦プラン」を策定し、目指すべき社会として、「若者が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できる夢のある社会」と「生涯にわたり、自立的な能力向上・発揮ができ、やり直しがきく社会」をあげ、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となった取組が必要であるとした。キャリア教育の推進は、その重要な柱として位置付けられた。その後平成18年には、内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン(改訂)」が策定され、キャリア教育のさらなる充実を図ることとした。